
いつかギラギラする日／アナーキスト2

カマ野郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いつかギラギラする日／／アナー・キスト2

【ISBN】

97846862

【作者名】

カマ野郎

【あらすじ】

4人のアーチェリストと4人の女神が廻る運命を変える奇跡の数ヶ

月間

運命を変えたいかい？じゃあ、願え、動け、考えろ、戦え。

説明（前書き）

頑張ります。

説明

アナタハジンセイー満足してますか？それとも後悔してますか？これからやる内容は作者がノリと遡きよいでやるので、路線がずれたりするで気をつけてください。カオスなことになつたりしますそれを踏まえてお読み下さい。そして文句があるなら感想やらに書き込んでください。一番上の文字は気にしないで下さい。作者がパニクつたと思って下さい。

いきなりですが、ここに誓いを立てたいと思います。

まず第一、どんなに時間がかかっても物語を書き続けること。

第二、けなされたとしても絶対に諦めない事。

第三、なるべく面白い物語にすることをここに誓います。

何をパクつたのかをここに記載する

「攻殻機動隊〔TV版〕」「男たちの挽歌」「FF13」「キャラクターのみ」など・・・長くなるのでどうぞお読み下さい。呼んでくれた読者のみなさんありがとうございました。

始まつて終わつて（前書き）

れあ、頑張り

チャイ「よしやあ————！カジキが釣れたあああ————！」

ホーフ「おめでたハーリー様、モザイクさん」

卷之三

「この求援信号を何度か送り、やっと年熙にてやっと総統は送ることができた」

「さんせうじ」と「さんせうじ」

「——分前からですよチーフ」

「……………」

「 」

「へえ～ そうですか」

「何が不満であるか?」

チヤ「ああ」

ホ「あ！・・・またシーラカンス釣れちやいました」

今日は もういいよ。ジーハカンズはもういいよ。四目だよ。

ホ「すみません、不甲斐なくて」

「ヤバゴメンゴメン、気にしなくていいから先に行つててくれ」

元亨利貞子集卷之三

ハ、なんてこゝなことにな、かんだけえ、とたしか・・・数ヶ月前に・・・

始まりと終り（後書き）

今日ここまでです

ヒカルチャーアクライ (前編)

まあ、面白くならないやつは頑張ります

どん吐チャイクライ

地獄・需要参考人取調室

ルシファー「さつさと吐いてくれねえと、こつちも我慢の限界なんだけどねえ~」

チヤー吐いたを解放してくれる?」

ノルマニヤノシテノリ

「それが仕事のかぎり

川：そ、うか吐くのがそ、うみたいです監察官廳」
監：「そ、うかそれはいい判斷だ4年間待ちどしかつたぞクソガキ」

チヤーじやあ、吐くね

卷之三

ル「すみません」

監「はあ?
ゴン!、パタン

チヤー ウワオ、豪快だね！」

川そりやあ
ありかどさんシン

どん吐チャイクリー（後書き）

なんか中途半端に

脱走（前書き）

書くことないです。

脱走

ル「ああ・・・これでオマエと同じにならうたよ、クソ」

チャ「おめでとう」

ル「めでたくねーよ、つたくよなんで悪魔が天使側のスパイを助けなきやならないんだ」

チャ「昔馴染み・・・つてことだ」

ル「まあ・・・地獄の始末屋やつてる時に助けられた借りチャラだからな」

チャ「別にいいけど・・・」「レ貰つてもいい?」

ル「ハア!? 拷問で頭イかれちまつたのか? それは絶対ダメだ」

チャ「なぜ?」

ル「それはなあ神殺しの銃という神やら悪魔など存在を消せる天界と地獄に二挺しかないあぶない銃なんだよ」

チャ「なんでこんな所に置いての?」

ル「それは・・・ジヤン負けして俺が持つことになつたんだよ」

チャ「ふうん、そんなことよりも後ろ!」

ル「ははーん、そんな手には・・・」

チャ「オラ! ! !

ル「あべし! ! !」バタ・・・

チャ「ゴメンな・・・今これが必要なんでね」

数分後

脱走（後書き）

以外とうまくできました。

帰還（前書き）

ハアーン死ぬ

ガシャーン！

看守「脱獄じやあ——！！！」

チヤーピヤッホー！

キイイイ - ! . ! . ! .

看守人

チャ「お？」

卷之二

「まあ・・・いいかどのみち地獄だし」

キルルルブーン！！

」の時はまだ、簡単に終わる」とたとえられていました。・・・

帰還（後書き）

ハア～生れね～

帰郷（前書き）

イエスウェイキヤン！

新浜県新浜市道路

ガシャン！、ドカーン！！！

肉「クソ！クソ！クソ！クソ！何なんだアイツは！？」

キイイイー！！！・・・ガチャ！

チャ「何逃げようとしているのかなあ～肉島君？」

肉「あのよう・・・あんたは何か勘違いしてねえか？」

チャ「・・・」

肉「俺はただ言われた通り総理になつて公安の連中をクビにしてあのクソアマを・・・」

ガン！ガン！ガン！ガン！ガン！

肉「ゴボ！・・・オガア・・・」

チャ「オマエに良いことを教えてやるよ」

肉「・・・？」

チャ「公安9課を解散させたことは許そう・・・でもな、少佐のことを・・・」

チャ「クソアマと罵る奴には・・・ハツ裂きにすることに決めたんだよね

肉「ちよ・・・」

チャ「今から俺がオマエの耳を切り落とし鼻をへし折り瞳を切り裂くまでに5秒ぐらいの猶予がある」

チャ「そこで、オマエに出来ることといえば祈りながら何が起きているのかを言うことと黙つて神に祈ることだけだ」

肉「どっちにすればいいですか・・・？」

チャ「テメエで決める」

今日は歸くいった。

後始末（前書き）

花火ファイアーハーフ

數分後

アーヴィングの小説

夕で君何読したの肉巣君(?)

ダ「まあ君のおかげ

洩らしても問題ないけどねえ」

「…全詰済にしてしまいました」

肉「計画の全容を……」

ダ「へえ～そ、う別にいいよ」

肉 え!? なぜですか?

#31 欲しき入るごの

肉「そ、う、なん、す、か、・、・、・、」

ダ「おもしろい」とにそんなどうしようもないキミが総理になつてこのセカイの社会をひつかき回したおかげで公安9課が動いて女神の捕獲手早く済んだ」「

「…」

肉「ハイ?」

ダ「生肉と焼肉どっちが好き?」

肉一元?

肉 「私は……燒……」
タ 「おれはねえ、生肉の方かすきなんだよねえ」

後始末（後書き）

「ごめんねも、キミからなこからもつ退場」

前　　編

女神たちとその息子が1人そろつたから要るなし奴全員消えて
もらおう」「

部「そうですか・・・わかりました」

搜索 (検索)

ナレッジベース

検索

病院受付

看護師「ですからあの～その人は退院しています」

チヤ「ホントに？」

看護師「本当です」

チヤ「じゃあ担当した医師は？どこの部屋で入院してたの？ねえねえねえ？？」

看護師「・・・あ！院長！？」

院長「どうしたのかね？」

看護師「この子が、やたらと患者さんの所在を聞いてきて・・・」

チヤ「・・・」

院長「あ～キミか！なんだ～」

看護師「え！？知り合いですか？」

院長「友人の息子だ。たぶん、父親が退院したという情報を知らされるのが遅くてここに来たのだろう」

看護師「でも・・・」

院長「いいからいいから、後は私に任して君は通常業務に戻りなさい」

看護師「でも・・・」

院長「いいから戻りなさいいいね？」

看護師「わかりました・・・戻ります」

院長「そうか、じゃあ行こうか・・・ボク」

チヤ「ああ、行きましょうおじさん」

院長室

チヤ「！」

チャ「やつぱ・・・そういうことか・・・」

院長「フフフフ～まさか、女神の息子”にお目にかかるとは私も
もツキがまわってきたようだ」

チャ「へえ～そう呼ばれてんだ・・・ヒシリで課長の居場所知つて
る？」

院長「ああ、知つてるともそれを知る前に君は我々の計画に参加し
てもうらつ」

対話（前書き）

延びた

1

対話

チャ「計画・・・ああ、あの訳のわからない計画?」

院長「フフフフフ・・・君にとつてはわけのわからない計画かもし
れんが私たちにしたらかなり重要な計画なんだよ」

チャ「だから、9課を解散させ少佐を拉致してわけのわからん実験
を行い入信した人たちをマインドコントロールしたわけか」

院長「ククククク、幸せになれますと誘い後はいろいろと吹き込んで社会に不性感を抱かせ後は・・・まあ、言わなくても分かるだろ
う?」

チャ「‘調教’だな?」

院長「男だろうと女だろうと薬漬けにしたり揺さ振りをかけたりすれば後はカンタンだ」

チャ「へえ、そうか大変不愉快な話だ」

院長「そうかもっと不愉快な話をしてやる、なぜ9課が解散され
たと思う?」

チャ「さあ、わかんねえ、なあ・・・」

院長「あいつが私達がやつてきたことを全否定しやがったんだ」

チャ「あいつ・・・少佐のことか?」

院長「ハハハハハ、あいつそんな名なの?」

チャ「いや、呼び名みたいなモノだ」

院長「じゃあ、本名はなんだ?」

チャ「その前になんて言われたんだ?」

院長「‘自分を変えられない奴が神になれるか’だとよ」

チャ「へへへへ・・・ざまあみろ」

院長「おいおい、まだ話に続きがあるんだよ聞くか?」

チャ「・・・もういいよ」

また、延びた

ディアドクター（前書き）

クソ！書いた奴が消えた！

ティアドクター

院長「おいおい、君が聞きたいと言つたから話つているんだ最後まで聞けよ」

「はあ、わかつた、わかつた、勝手にしてくれ

院長、あいつ・・・いやあの女が我々の、聖なる擊鉄”を全否定した後、何が起きたと思う?」

チヤ「知るか？」

院長「あの人”が現れ、女を捕らえたその後、あの人”は、聖なる言葉”を述べた」

院長「今は意味がわからなくてもいざれ来る、審判の日」にはわかるよ、女神の息子”よ

院長「フフフフフフフフ・・・君にとつては理解に苦しむことかも知れんが我々にとっては重大な意味を持つモノなのだよ」
チャ「もういいから、聖なる言葉やらを教えてくれ」

院長、「Jの聖女は義体たゞ我々の計画にどつて都合のいし事だからこの者の脳と魂がダメだそこでだみなさん、この聖女を女神にするために私の血肉を与えようと思ういいかな？」

院長「ヒヤはハハハハ♪半不死者にしたのだよ」
チヤ「テメエ……!!」

院長「いやはや・・・君の弱点を聞いておいてよかつたよ
院長「まあ・・・そんなにカリカリするなよまだ話の続きがあるん
だから」

チヤ「・・・」

院長「その後は大変愉快だつたまづ頭に我々が造つたマイクロマシンを植付け記憶やゴーストなどを弄り廻し、後は墮ちるまで調教パ一ティよそれと・・・」

院長「お前の個を知つてゐる」となんども吹き込んだり過去のこと何度もエグつたりしたな」

院長「本当に墮ちる時は墮ちたな～まさか、あそこまでするとね思わなかつたなあ」

院長「まるで本物の豚よりぶた・・・
バキッ！..ドバー！..ガタンゴロロロロ・・・ガン！..！」

院長「キサマ・・・・・！」

チヤ「どうした?さつきまでの威勢はどうした?」

チヤ「さあ・・・・口々話の続きを聞かしてくれ」

院長「話たくない、もうこの話は・・・」

ドカ！バキ！グシャ！

院長「・・・」

チヤ「話せ、お前らが知つてきたことを全部ー」

院長「ククククク、話題を変えよつ・・・なぜ9課が解散したのかについて」

院長「それはなあ・・・お前がいたのがいけないんだ」
チヤ「どういう意味だ?」

院長「‘あの人’はお前のことが大嫌いで、お前の人生を無茶苦茶にしてやううと、課連中に矛先を決めたんだ」

チヤ「そんな・・・」

院長「そんなに驚くことか？あの人は気に入らない奴がいればその家族や友人とその家族、仕舞いにはたまたま知り合つた奴まで殺すような御方だ」

院長「ああ、今でもあまりの素晴らしさで、課の連中の人生を無茶苦茶にする瞬間が頭にこびり付いてるよあれは大変愉快だったます・・・」

院長「トグサと呼ばれる男の家庭をブッ壊してやつた」

院長「あいつの電腦にコンピューター・ウイルスを送り込んで精神的に追い詰めた後、暮らしてゐる近所に

大量のデマな情報ばら撒いて娘は学校で虚められるよう仕向けたり院長「特にひどかったのは妻かな、なんていつたつて一日400000通モノ意味不明な手紙に豹変した夫、娘の学校問題にそれに・・・」

院長「親戚の家や自分暮らして所が爆発したり放火されたりしたらもういつしょに暮らせなくなるよなあ？ひやははははは！――！」

院長「ホント、離婚するまで過程が面白かったぜ！――ははははは・・・」

バンバンバンバン・・・カタン、コロロロロ・・・

チヤ「お前の話は大変不愉快だったから、最後まで聞くに聞けなかつたよクソ野郎」

チヤ「地獄で永遠にしゃべり続けなまあ・・・誰も聞かないと思うが」

チヤ「じゃな、最低野郎俺はここを立ち去るから次会うときはも少しマシな話を考えておいてくれ」

チヤ「それでも・・・聞きたくはないがな2度と」

ディアドクター（後書き）

ヤベエ……原作レイプ……しちました
それと長くなってしまった

過去（前書き）

成るがままに。

運命は時として残酷な時がある

知りたくもないことを知ったり、死んでほしくない相手が死んだりなど。

俺はその瞬間をなんども見てきた・・・

コイツたぶん死ぬな〜と口にだしただけで3日後に交通事故で実際に死んだ友達もいた

俺には不死者になる前からあつた力だ

未来を予知する能力・・・日常にあつたらぶつっちゃけ邪魔でしょうがない。

何故なら人の死ぬ未来しか見れないから・・・
それが の発言なのだまあ〜簡単に言つてしまつた俺も悪いのだが
それを知つていて止めない父親も悪いかも知れない。

父親は俺の力を悪い方向に使おうとしたが、未来を見るしかできない力に人の人生を変える力を持つわけもなく・・・ただ、人の死ぬ瞬間しか見れず何時ごろ死ぬのかわからない力に父親は勝手に絶望し。

母親と妹と弟を惨殺しその罪を俺に擦り着けた。

だが、俺がたまたま暮らしていた場所がマイアミでホレイショ・ケイン率いるCS?によつて真相が明るみになり父親は終身刑になり永遠にブタ箱送りになつた。

ホレイショことチーフは捜査中俺のことを気にかけてくれて、CS

?のみんなも俺のことを、9歳の子供として見てくれた・・・初めてだつたあんなにも親身になつてくれたりヒトとして扱われることが。

まえは、ヒステリックな母親と俺の力を悪用使用と考える父親に俺の「力」を知り、バケモノ」と罵る

同じクラスの子たちに腫れ物のように扱う教師たち・・・そして、力」を恐れて見て見ぬフリをする大人達

どうしようもない奴ばかりだつただが、妹と弟は俺のこと、お兄ちゃん」と慕い人して見てくれてた

だから父親の結うことに従うことができた・・・だがもう2人はいない。

父親によつて2人を奪われ、罪を擦り着けられそして誰も庇つてくれず弁護士も検事どもも

誰も庇つてくれなかつた・・・

俺には、絶望」一文字しかないと思つていたがそんな中でCS?のみんなと知り合つことができたのだ

俺は彼らによつて生きる希望を見つけることができ、彼らの役に立ちたくて何かできないかと

なんやんでいる時に運命の出会いを果たしたそれが・・・LSDとラッキースカイダイヤモンドを率いるレイヴンさんとで会つたんだ。

その人は前世の息子である、ホープ」という男の子を連れCS?の本部に来ていた。

どうやら、俺のことを必要していことがわかつただから、役に立つのならという想いで入ることにした。

それからというもの・・・「ホープ」と共に人を殺す技術や人ならざる者たちとの戦い方を身に着ける

と同時に、力”のパワーを研くことにした

そのおかげで精神と魂を鍛えることが出来た、それと、ホープ”といふ名の弟分ができた

ホープは俺のこと、お兄ちゃん”と慕つてくれた過去に戻つた様で心地よかつた

気付けば・・・CSI? のみんなと共に数々の事件に戦いを挑み、チーフと共に現場で犯罪者やマフィアを血祭りに挙げそれと同時にLSDの捜査官としていろんなセカイの問題に立ち向かっていたついたあだ名は、サタンより恐ろしい少年”と名づけられた因みにホープに名づけられた渾名は、2代目フランク・キャッシュ”だったこの頃から使つてた銃は元凄腕CT? 捜査官で今はLSD銃器コンサルタントのジャック・バウアーさんから貰つた、U.S.Pコンパクト”で、チーフから誕生日プレゼントとして貰つた、サングラス”今で二つは大事に使用しているこの頃はまだ・・・幸せだつただが、ここから運命が狂つた。

副社長をやつっていたダブルDによつて俺は撃たれ、チーフやCSI? みんなを次々と殺していき

仕舞いには自分の元嫁にあたるレイヴンさんに瀕死の重体に負わせ、元息子であるホープをレイプし

無理矢理、完全なる不死者”にした・・・

この頃からアーヴィの中で、”計画”が始動していったのかもしけない俺は意識不明のまま、副社長代理を勤めいていた、ケビンさん”によつて別のセカイに輸送されていた

目覚めたら・・・瓦礫の中だったのその中で女の子の声と男の子の声が聞こえ探してみると・・・

瀕死の状態の子供2人を見つけ彼らを背負い瓦礫の中を飛び出したそこから・・・あまり覚えていないが折鶴を折つた所まで覚えている一世年も生きたら記憶が曖昧になり困る

また、思い出したらこの話をしよう。

過去（後書き）

もつ、長すぎてなに書いてたのか忘れていいので、
回想編は書ける時に書きます。
本編は真面目にやりますので。

拷問（前書き）

本当に難しい小説とは捻じ切れるほど面白いモノだと想つ。

倉庫

ダ「おーい、起きろ~」

チャ「う・・・なんだ?」

ダ「お久しぶりです」チャイ君

チャ「久し振り、クソ野郎」

ダ「ほほう~ 口が汚いねエチャイ君~ そんな子には口を綺麗にしないとねえ・・・」

チャ「はあ?」

キユイイイイイイイイイイー!!

ガガガガガガ・・・ゴボ、グボ! ブシャ!!

チャ「オゲエ・・・グボア・・・はあ、はあ」

ダ「イタイ?」

チャ「イッダ~ って、もんつじやね、エ・・・」

ダ「ゴメン、聞こえない」

キユイイイイー・・・ガツガガガガガ!!

チャ「ギヤああア~アガアア~!!」

ダ「ヒヤハハハ・・・!!!!!!以外と人の体つて脆いねえ~ まあど

の道再生するけどねえ~

チャ「テメエ・・・相変わらず反吐ができるぜ」

ダ「え? なんて? ?」

カチ、ジヨボ~!!~!!

チヤ「今度はガスバーかよ・・・」

ダ「左手首をドリルで切り落としきやつたからね止血しないと、思つて」

ポタ、ポタ、ポタ、ポタ・・・

チヤ「余計なお世話だ、バカ」

ダ「ゴメン、良く聞こえなかつた」

ジユ〜！〜！

チヤ「アギヤー！〜！〜！アガツ！〜！〜！」

ダ「あのさあ・・・質問してもいいかな?」

チヤ「なんだ・・・」

ダ「肉島君といんぢょーを殺したのは君かな?」

チヤ「状況からしてそつだろ?滅茶苦茶になつた院長[室]で座つてい
る俺以外いたか?」

ダ「じもつとも」

ジユボー！〜！〜！ジユウウウ〜

チヤ「あぎやああああ！〜！〜！」

ダ「ありやりや〜今度は右田が潰れちゃつたねエ・・・」

チヤ「クソたれ・・・」

ダ「ハハハハ」

チヨキチヨキチヨキ・・・ザクツ！〜！

チヤ「ああ、チクシ弔・・・」

ダ「ホント公安9課といいお前といい〜ソロとホープといいなんで
口が堅いだよ〜」

チャ「仲間は裏切れねエ・・・」

ダ「耳削がれたりドリルで腹に穴を空けられたり田玉を焼かれたり左手首を斬られてもか?」

チャ「ああ

ダ「CSDの連中もそعدだつたなあ~全然口を割らなかつたなあ~

チャ「ざまあ、ミロ」

ジユボー!!!!ジユウウウ~

チャ「アガ・・・くう・・・」

ダ「おお、耐えてる耐えてる・・・強くしよう

ジユボー!!!!ジユー!!!!!!

チャ「アギヤー!!!!」

ダ「あのさあ・・・勝手に死んだ2人から何聞いたの?」

チャ「誰が言うか

ダ「へエ~そつ・・・まだ、底うんだ9課の皆さん方を

チャ「だから、裏切らないし9課は関係ないだろ~!~!~!

ダ「俺は9課のこともつと知りたいなあ~と思つただけなのに~・・・

~

チャ「とんだストーカー野郎だな・・・お前・・・

ダ「ありがとう 儂めてくれて その期待どおりに・・・

ザー・・・

ダ「9課の皆さん方とオマケで我がかつての息子で現JSD社長のホープの遺体と我がかつての義理の娘で今はホープの保護者兼恋のライトニングの遺体をいれてなんと・・・

~

ダ「チャイ君の耳と9課の情報を教えるだけで買い取る」ことが出来ます」

チャ「テメエー！！！！！！！！！」

ダ「ギヤハハハハハ！！！お前が絶対仲間を裏切らないとわかつて
いたからそれならお前が大切に思っている物を全て破壊して無理矢
理吐かした方がいいかなあ」と思いました

ダ「まあ、ぶっちゃけあの2人の情報も、女神”も、女神の息子”も
いらなくてただお前に対する嫌がらせ程度だから”メンねエ”それ
と」

ダ「信者たちは金づるでお前が最初に出来た友達、クゼ”は豚の餌
になつてしているのでそんと」ヨロシク！！！」

チャ「お前・・・クゼまで殺しちまったのか？」

ダ「うん・・・だつて、女神”が愛した男でお前の初めてのこのセ
カイで知り合つた友達だらう？殺しておかいでどうする？」

チャ「なんでそこまでできるんだ・・・」

ダ「だつてお前がタチコマの運命を変えるために核ミサイルに特攻
仕掛けで消滅して地獄に墮ちたと

知つたら、そりやあこのセカイを無茶苦茶にしなきゃならんだらう
？」

チャ「じゃあ・・・つまり・・・」

ダ「そう、今回の『レは全部お前が消えたからこうなつたつてわけ

チャ「・・・」

ダ「アレアレ？何にも言えなくなひやつたの〜ボク？」

チャ「弁解のよちもない・・・俺には
ダ「だよつね~じゃあ死のうか?」

チャ「ああ、殺してくれ・・・」

ダ「わかつた~」カツチカチガチン!

ダ「バイバイ~ヒーローさん・・・
バリン!~ドーン!~!~!

ダ「お?」

部下「襲撃です、教祖様!~!~

ダ「マジで?」

部下「マジです」

拷問（後書き）

長いけど、面白くなっているかな?
なつてこるといいなあ

救出（前書き）

やつと物語が進みだした

ダ「アームス一ツどもまだ、生きてるか?」

部下に見え全滅しました

夕一セには夕ノたこたか」しゃあ逃げるぞ、‘準備しニ’”
部下「はい、わかつました急いで準備します

ブス、チュー・・・

チヤー、それなんだ？」

タ・まあ もよにと麻酔薬みたしなモノたかに漫にすなた」

ダ「ホントはハ

？」
「アーニー！」

「その手を放して手を擧げろ

ダ「アレレレレ？？？？確かキミ、体

な
・
・
・
」

? 『 そんな戯謔の前にチャイ何をした? 』

シユ！グチャツ！！

タ一イタタタ……相変わらずいいモンもつてる世

ないと思ひたゞなあ~

「それせんじや・・・・・？」

アヤシイ。心喰か。モノ。モノ。モノ。

ダ「ヒヤハハハハ！！！まだまだ詰めが甘いぜモトコちゃん！次

は期待して待つてるぞ~」

ドカーン！！！！！

草薙素子「チツ・・・」

バトー「大丈夫か！少佐」

少佐「大丈夫だ！それよりもチャイを見つけた！！医療班を呼べ！」「バトー「了解！！」

数時間後・・・

医療班「医療班の情事くるーにーだ！患者の容態はどうだー」

少佐「来るのが遅いぞ！」

情事「そんなことは今は関係ない！患者の容態を言えー！このメスゴ

リラ！！」

少佐「重体だ！さつさと治療しろ！！」

情事「無理だ！急いでＥＲに連れて行くぞ！！」

トグサ「そんな所、何所にある！－！－！」

情事「ワタシのセカイにある！－！－！－！」

バトー「そんな時間ねえだらうー！」

情事「大丈夫だ1時間で辿り着ければ助かる見込みはあるー！－！」

少佐「わかった！死ぬ前にさつさと連れて行くぞ！－！」

バトー「おい、でも・・・」

少佐「今はコイツに賭けてみるしかない・・・運ぶぞ！－！」

バトー「・・・了解」

4時間後・・・

チャーチー「オエ・・・オエ・・・・」

ボタボタ・・・

一同「どこが一時間なんだー！－！－！－！」

情事「すまない、方向オンチだったこと忘れていた・・・誠に申し訳ない」

少佐「早く治療をしろ！」

情事「わかった、全力であたらしてもらうよ

パズ「もし・・・助からなかつたらただでは済まないとと思え・・・」

情事「はは、ここから先はワタシの本領発揮だ！！はははは！」

トグサ「アイツ大丈夫かな？ダンナ・・・」

バトー「オレにもわからん・・・」

救出（後書き）

ヤベエ・・・コメティイになってしまった・・・それも笑えるかどうか分からぬヤツだ・・・

余談

情事くるーにー先生はただの不死者研究家で、ERに入れたのはコネ。

しかも、作中に出てくるオリジナルとオマージュキャラクターによく

変態野郎です

80% (前書き)

ハングリー・・・

ER特別待合室

バトー「・・・」

トグサ「・・・」

パズ「・・・」

サイトー「・・・」

イシカワ「・・・」

草薙素子「・・・」

ドン！

情事「くるーにー」「・・・」

バトー「ど・・・」

情事「成功！・・・だが

トグサ「だが？」

情事「意識が戻らないとか？戻るとか？」

バトー「どっちゃんだよ！！」

情事「戻る20%戻らない80%だから・・・」

イシカワ「ほほ戻らねえじゃねえかー！」

情事「でもでも、目覚める可能性も20%もあることだしねえ？」

トグサ「そうかもしけないけどな、目覚めない可能性の方がかなりあるだろうが！」

情事「そんなに責めるなよ！しそうがないだろうー医師にもミスする時もあるさあ！！」

バトー「なんで逆切れするんだよ！？」

パズ「死ぬ覚悟は出来ていいか?」

情事「オマエ、やつと口を開いたと黙つたらそれかよーもつこー!」

カチャ!

バトー「てめえ・・・」

情事「全員、動くなあー動いたらこのオンナが死ぬぞ
少佐「何のマネだ?」

情事「どうせ死ぬならアソタみたいなベッピンさんと死ぬほつがマ
シだ!!」

トグサ「お前、それでも・・・」

?「止めておけ」

イシカワ「誰だ?」

浩太「落合・・・浩太、現LSD副社長兼第一級LSD暗殺者・・・
何か文句でもあるか?」

사이트「LSD・・・副社長?」

浩太「そうだ・・・文句はないよな?」

バトー「何もねえけど」

浩太「そうか・・・ではチャチャツト済ませよつ・・・」

80%（後書き）

なんか、サスペンスなのかコメディなのかわからなくなってきた。
た。

いろいろとカオスです。
作品も作者の頭の中も・・・

復活？（前書き）

アイアムハングリー！！！

情事「くるーりー」「なぜ、ここ」の場所が・・・」
浩太「おいおい LSDの監視システムを舐めるなどんなセカイに居よつとお前を見つけられるんだからな」

情事「クソ！テキサスで1日40000回も女を襲うんじゃなかつた！！」

バトー「スッゲエ・・・」

浩太「今更後悔しても遅い。死刑確定だ」オマエは

情事「クソ・・・ツイテネエ！二つのグループから命を狙われるとはなぜこんなことに？」

トグサ「それは、お前の行動が・・・」

情事「俺は悪くない！俺の研究を認めない世の中がいけないだあー！！！！！」

ベキツ！シユツ！ガタン！..

チャイと少佐「世の中に不満があるなら自分を変える！！それが嫌なら、耳と目を閉じ、口をつぐんで孤独に暮らせ！..それもできないなら・・・」

カチャツ！

情事「ヒイイイイー許してくださいー後世ですから・・・」

チャイ「少佐、コイツ誰？」

少佐「自称スゴ腕のLSD医療スタッフだそつだが、見覚えある？」

チャイ「いや、ないや・・・ビコで知り合つたの？」

少佐「私達のセカイの」S D支部だ

チャイ「へえ・・・そうじゃあ、たぶん君達を殺そつと仕掛けてきた‘奴等’のスパイかもしれないから殺すね」

少佐「話を聞かなくてもいいの？」

チャイ「聞くほど的话も・・・」

バリン！

チャイ「今度はなんだ？」

ランニングリビングデッド「ガルルル・・・」

チャイ「ホント今日は拷問されるは、死んだと思つていた仲間達と再会するは、意識不明されるはワケ分からんヤツに命を救われるは仕舞いには・・・」

ランニングリビングデッド「ウガー！・・・」

チャイ「ゾンビ襲撃・・・ツイでいるのかツイでいないのかわからなくなつてきた」

少佐「逃げるぞ、チャイ！――」

チャイ「その前にコイツを・・・」

ぐちやぐちや、ベキ！ボキ！

情事「助けてくれー！――」

ランニングリビングデッド「あつ～クチャクチャ」

チャイ「もづ、なんなんだよ」

復活？（後書き）

カオスなことに・・・

アウトフレイク? (前書き)

書くことないです

アウトブレイク？

ER正面入り口

？「ありやありや」りやあヤバイねえシンジさん」

シンジさん「やばいつてレベル通り越して、」うちの身もあぶなく
なつてきましたけど」

？「大丈夫大丈夫どうせ、不死者”だから死なない死ない」

シンジさん「それよりも早く人々を助けないとまた、‘始末書”書
くハメになりますよジョセフさん」

ジョセフさん「ああ、あまりの世紀末プリに見取れちまつてたそろ
そろ仕事しないとヤバイな」

シンジ「ヤバイつてレベル越えていますよ」

ジョセフ「メキシコの西側の麻薬戦争を思い出しちまつた

シンジ「たしかに・・・でもこいつらの方が酷い」

ジョセフ「当たり前だ、なんて言つたつて、ゾンビアウトブレイク
”・・・死人が人を喰らうんだしかも感染したら同じ」との繰り返
し」

シンジ「じゃあこのセカイを封鎖しないと・・・」

ジョセフ「ははははだから、奴等を呼んであるんだ」

シンジ「奴等？」

キイイイー！――ドン！カタン、タツタタタタタ・・・

特殊洗浄部隊「特殊洗浄部隊だ！――今から」このセカイを封鎖す
る！――文句あるヤツは出て来い！」

通行人「キャー！！！」

ランニングリビングテッド「ウガー！！！」

シンジ「ああ、なるほど」

ジョセフ「こいつ時にコソ役に立つ、特殊洗浄部隊”」ここは奴等に任して中に突入しよ」

シンジ「そうですね、ジョセフさんそれよりも得物はもつてきましたか？」

ジョセフ「ああ・・・スパス12とグロック26だシンジさんアンタは？」

シンジ「///ミ軽機関銃とザートイーグルですさあ、行きましょ

うジョセフさん」

ジョセフ「だな」

アウトブレイク？（後書き）

ジョセフは前作から性格が少しキャララけております。
その理由は本編で明らかになるといいですね

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4686z/>

いつかギラギラする日 / アナキスト2

2012年1月10日22時46分発行